

司式 L. スパーリンク宣教師

前 奏

奏楽 五十嵐美代枝姉

開 会 招 詞 ローマ書12:1

* 賛 美 歌 14:1 ほめたたえよ、つくりぬしを

ほめたたえよ、つくりぬしを、きよきみまえにひれふし、
 ささげまつれ、身をも魂をも たぐいなき御名をあがめて。 アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去って
 ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、
 母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも
 白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び
 を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この
 口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言 ローマ書5:8-11

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 42:1

みめぐみゆたけき主の手に引かれて この世の旅路をあゆむぞうれしき。
 妙なるみめぐみ日に日に受けつつ み跡をゆくこそよなき幸なれ。アーメン

公同 の 祈 禱 19 聖 霊 降 臨 節 第 二 主 日 三 位 一 体 主 日

父 と 子 と 聖 霊 の 三 つ に し て 一 つ なる 活 け る ま こ と の 神 さ ま、 あ な た は、 愛 と 力 と 栄 光 に 満 ち た 大
い なる 神 で あ る こ と を 告 白 し ま す。

復 活 の 主 イ エ ス は、 弟 子 た ち に 現 れ、 全 て の 民 に 福 音 を 宣 べ 伝 え て キ リ ス ト の 弟 子 と し、 父 と 子
と 聖 霊 の 名 に よ っ て 洗 礼 を 授 け よ と 命 じ ら れ ま し た。

わ た し た ち は、 主 イ エ ス が 命 じ ら れ た こ と を す べ て 守 る こ と に よ っ て、 三 つ に し て 一 つ なる 神 の、
愛 の 交 わ り の 中 に い る こ と が で き ま す よ う に、 今 も 後 も と こ し え に。

(マタイ28、Iヨハネ1、「聖霊」四)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 海外医療 70

今 献 ぐ る そ な え も の を 主 よ 清 め て 受 け た ま え アーメン

聖 書 朗 読 ローマの信徒への手紙1章16-17節(新約 p. 273)
コリントの信徒への第一の手紙1章17-25節(新約 p. 288)

説 教・祈 禱 「とにかく福音を語り伝えよう」 L. スパーリンク宣教師

* 賛 美 歌 71 それかみはそのひとりごを

それかみはそのひとりごを たもうほどに世をあいしたまえり すべてかれをしん
ずるもの ほろびずして とこしえのいのちをえんためなり。それかみは世をあい
したまえり、世をあいしたまえり。アーメン

聖 餐 司 式 杉 山 昌 樹 牧 師

* 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

天 に ま し ま す 我 ら の 父 よ
願 わ く は 御 名 を あ が め さ せ た ま え
御 国 を 来 た ら せ た ま え 御 心 の 天 に なる ご と く 地 に も な さ せ た ま え
我 ら の 日 用 の 糧 を 今 日 も 与 え た ま え
我 ら に 罪 を 犯 す 者 を 我 ら が 赦 す ご と く 我 ら の 罪 を も 赦 し た ま え
我 ら を 試 み に 会 わ せ ず 悪 より 救 い 出 し た ま え
国 と 力 と 栄 え と は 限 り な く 汝 の も の な れ ば な り アーメン。

* 頌 栄 14:3 (ほめたたえよ、つくりぬしを)
めぐみの神、さかえの主を もろごえあげてたたえよ。

つよき手もてみちびきたもう 主にのみ御栄えつきざれ。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙 禱)

報 告 古 澤 純 一 長 老 (司 会・受 付 次 週: 門 脇 陽 子 長 老)

本 日 受 付 1 階: 森 永 美 保・加 藤 良 明 執 事 2 階: 若 月 学 執 事 / ZOOM ホ ス ト ・
録 音: 門 脇 光 生

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

聖書箇所：ローマの信徒への手紙1章16-17節 (新約 p. 273)
コリントの信徒への第一の手紙1章17-25節 (新約 p. 288)

説教題：「とにかく福音を語り伝えよう」
参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 32、54-56、60、105
説教者：ローレンス・スパーリンク(キリスト改革派日本伝道会宣教師)

趣旨：創造主に背いた罪人が救われ、新しい永遠の命をいただくことはイエス様によって与えられる神様の一方的恵みに依り頼むことによっています。このメッセージが福音(良い知らせ)です。これを受け止め、これをさらに語り伝えることは世を救いに導き入れる神様の定められた力ある手段です。

中心的主張点：イエス様による救いのメッセージを受け入れ これを伝えることはすべての主の民の喜ばしい特権であり、教会のすべての営みの中心である。

聖書朗読：ローマの信徒への手紙1章16-17節 (新協同訳聖書・新約 p. 273)
わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。
聖書朗読：コリントの信徒への第一の手紙1章17-25節 (新協同訳聖書・新約 p. 288)

キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまうように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。十字架の言葉は、減んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を減ぼし、／賢い者の賢さを意味のないものにする。」知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。
(以上が神様の御言葉です。主に感謝します。)

序説：前回のメッセージ(ローマ10章)の中心点を思い出してみると、次の通りでした：意義ある人生はキリストを信じ、キリストのためにベストを尽くし、キリストを知らない他の方々にイエス様の救いのメッセージを広める事にある。自分が歩んできた人生について証をしなが、イエス様が主であることを公に言い表し、復活を信じて、主の民となること、そして、この唯一の救いのメッセージを伝え続けることが後悔のない人生になること、このように話しました。今日の話はある意味でこの続きとなるでしょう。福音を伝え続けることが中心となります。

1、私は宣教師ですから、当然のことですが、与えられた使命に従事することを常に思っています。使命ですから、使えることによって与えられた命を費やす意味になるでしょうか。もちろん、任命してくださる方の御用に使えるわけです。そして、そのお方の御心がなんであるかを確認して、これに従事します。私たちクリスチャンが使えるのは全能にして生きておられる神様ですから、まるで大いなる王様の召使、あるいは、この王様が送り出す使節となります。こうい

うものだと勝手に考える人がいるかもしれませんが、神様ご自身が使命を決めて、これに従事することをお命じになります。しかしながら私たちの教会の理解では、自分と神様の間に決めることではなく、教会の交わりの中で確認して任命していただきます。自分の主に仕える道がどんなものか、宣教師であれ、どうであれ、このように公に確認することが最も健全です。そして、任命とともに、祈りと捧げ物によって支援もしてください。

宣教師にいろいろな類があるかもしれませんが、基本的に従事するのは、イエス様から与えられた大宣教命令です。すなわち、すべての国民がイエス様の弟子となり、洗礼を受けさせて、イエス様の教えを学び実行するようになることを目指します。マタイによる福音書28章19-20節の通りです。この大宣教命令を果たすには、いろいろな段階がありますが、最終的に、神様の救いのメッセージが伝達されることが中心です。

どうすれば良いかと、戸惑ったりすることが度々ありますが、大先輩の模範があるから、いつでもこれに立ち返り、確認して、再び取り組み直して、前進するのです。その大先輩というのは、使徒パウロですね。使徒言行録にペテロ、フィリポ、ステファノ、バルナバ、他の登場人物もいます。これらからもいろいろな参考話ができますが、使徒言行録の半分以上が使徒パウロの活動を記録しています。新約聖書の多くの書簡もパウロの文書です。これがわざわざそうになっているのは、私たちに手本を示し、まともに主の道に従う模範を与えるためだと思います。パウロもまた、自身の理念と熱心さを語り、宣教師に、中心的ミッションにとどまるように、もっと上手に、熱心に従事する結果となります。一つだけ引用します。コリントの第2の手紙5章17-20節です(p.331)。「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させてください。」このメッセージが世の初めから終わりまで、すべての人に届けるべきメッセージです。

2、聖書を調べればわかることですが、この唯一の救いの道が天地創造の技を始める前から、全知全能の主なる神様によって定まっていました。ですから、私たちの始祖アダムとエバが主に背いて罪に落ちいてしまうとすぐに、神は悪魔の頭が女の子孫によって碎かれることを宣言します。歴史にわたって神様は罪の贖いが成し遂げられることになることをいろいろな方法でお示しになります。それがご自分の独り子の犠牲によって成し遂げられることを預言者を通して語ります。イエス様が現れると、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と洗礼者ヨハネが宣言します。そして、黙示録にはこの小羊の様子が次のように描写されます。彼が「天地創造の時から、屠られた小羊」なのです。

何回も指摘してきましたが、聖書全体は、1500年間にわたって40人以上の著者によって与えられた神様のみ言葉ですが、そのすべてが最終的に焦点をこの救い主に当てています。聖書を調べるとき、解釈するとき、これが正しい理解の秘訣です。ヨハネによる福音書がこれをはっきりと語っていますが、イエス様ご自身も言います。「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。」(ヨハネ伝5:39)これは神様が用意してくださった救いの道であって、信じて救われなさい、と勧めるわけです。

ところが、イエス様が身代わりとなって十字架にかかって死ぬことによって、彼に依り頼むすべての人の罪の贖いとなって、三日目に復活なさった話は、自然の人にはつまらないノンセンスのように聞こえることが多いです。「自然の人」というのは、神様に背くことによって霊的に死んだものとなり、理解できない人の話です。しかし、これこそが罪を赦していただく唯一の道であることに私たちはこだわります。これがなければ、救いはありません。イエス様が現れる前に、来るべき方を待ち望んで救われ、来てからは歴史の中で救いの技をちゃんと成し遂げてくださった方を仰いで救われるのです。ですから、イエス様は、紀元前2000年ごろの人物であるアブラハムについて、「あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」と主張します。(ヨハネ伝8:56)

この唯一の救いの道、福音をもう一度確認しましょう。創造主に背いた罪人が救われ、新しい永遠の命をいただくことはイエス様によって与えられる神様の一方的恵みに依り頼むことによっています。このメッセージが福音(良い知らせ)です。イエス様こそが全ての条件を満たして、ご自身に依り頼む全ての人を永遠に生きるように、全く清くしてくださいように、信じるものを新しく生まれ変わらせてくださいます。完全な救い主です。人種や地位、言葉と国籍、学問や性別、これらとは一切関係ありません。お金持ちであれ、奴隷であれ、神様のみ前に平等です。主を見上げ信頼すれば、結果が同じです。これが全能の主なる神様の定めです。

パウロが指摘するように、超自然的なしるしを求めたり、奥義のある知恵の学問を求めたりする人たちがいるかもしれませんが。人間はどうしても別の道を頼りにしようとしています。特に自分の努力や功績を神様に提供して、認めてもらいたがります。自分の想像力を働かせて、自分の好みに合う神々を作りさえして、これらに頼もうとします。けれども、これらの道はすべて死と滅びに至るのです。結局、「私が唯一の道である」とおっしゃったイエス様だけを見上げなさいと聖書全体が一貫して、救いの道を示すのです。これは愚かな話なのか?つまりきを起すのか?主のみ霊の働き次第です。

3、しかし、誰がこの救いの福音を伝えるべきでしょうか。これは宣教師固有の働きで、他の主の民は心配しなくてもよいものでしょうか。決してそうではありません。私たちは宗教改革によって、誰でも全ての主の民が祭司やその他のどのような仲介者なしで、直接的に神様に祈ったり、礼拝したりできる真実を再発見しました。これを「万人祭司」の教えと言います。もちろん、これが聖書の教えです。でも私はさらにこれに加えて、「万人説教者」、あるいは「万人伝道者」も聖書が教えていることをここで宣言します。いかがでしょうか。

もちろん、教会には使徒、預言者、福音宣教師、牧者、教師の働きがあり、これらの働きが時代と場によって非常に重要です。これらのいわゆる職務を捨てようとして勧めません。逆に、私たちに与えられていることをいつも感謝して、もっと大勢のものがこのような勤めを目指すようになってほしいと勧めます。今日も勧めます!けれども、救いのメッセージを伝えるのはこれらの特別な奉仕者の仕事だけなのではありません。救いのメッセージを伝えることはすべての主の民の特権です。

でも、誰でもが説教できるでしょうか?そんな神学校の勉強をしていませんし、話をまとめて人前に立ってしゃべることは苦手ですよ、とおっしゃるかもしれません。でも、私が進めていることは牧師のマネをすることではありません。ただ、賜物と召命感とやる気があるならば別ですが!牧師になるように献身しなさい!信徒説教者でもいいです。でも、「万人説教者」という場合は意図が違います。パウロが「宣教」とか「説教」という時に、私たちのイメージと違うことを語っています。彼が、私が勧めているのは、言葉によって、話によって、発表によって、会話の中で、場合によって講演や従来の説教によって、イエス様が救い主であることを知らせる、勧める、話す、伝えることです。「説教」という言葉を聞くだけで、日曜日の朝の礼拝の中で行われるプロのお話だと想定しますが、そうではありません。先ほど確認した救いの道をそのままでも構いませんから、とにかく、自分のことばで伝えて、キリストにある希望を相手の他の人に知っていただくことです。

ペテロも勧めます。「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」(第一ペテロ3:15)もちろん、要求する人にだけではありませんね。初代教会で大迫害が起こった時に、こんな結果となりました。散っていった先々で、イエス様の情報を言い広めました。牧師が不足していますか?日本の多くのところでイエス様による救いの知識がまだ伝わっていないですか?私が話さなければ、福音を聞く機会がないですか?そうです。あなたの出番ですよ!でも、私たちはためらって、いろいろ言い訳を持ち出すかもしれませんね。恥ずかしいです。宗教の話を持ち出すと迷惑になります。とにかく、上手に話さなければ、逆効果があり、人を躓かせてしまう結果になるのではないのでしょうか、と。

だからこそ、私たちは学んだことをきちんとお伝えできるように準備しましょう。訓練を受けましょう。それほど難しいものではありません。ツールもあります。ヨハネ伝3章16節があります。福音を表現する愛称讃美歌もあります。考えてみれば、方法がいくらでもありますね。でも、この事実もあります。私たちが福音を語り伝えることを主が確実に用いてくださいます。用いて、祝福してくださいます。あなたの話す言葉によって主は人をご自分の方に呼び寄せて、救いに入れてくださいます。だって、これは神様が定めてくださった、よしとしてくださる方法であり、神様の力が現れる主の選びの手段です。福音は人を救いに入れる神様の力です。嫌がられても、笑われても、断られても、神様の弱さ、神様の知恵です。言葉が下手の私たちをも主が立ててください、言葉の下手なモーセを用いたように、私たちも用いて、霊的に奴隷となっている民を約束の地に導き入れてくださいます!

結論:私が宣教師として、よく「特別伝道集会」のお話をするように頼まれ、宣教師が登場する礼拝を「伝道礼拝」と言いますね。そのいろいろな理由はわからなくはありませんが、私の考えでは、すべての礼拝が伝道礼拝のはずです。私たちが集まるのは救いの福音があるからこそ。私たちが神様に賛美をささげ、御心を学び、「御国がきますように」と祈り、罪の赦しを確認するのは、イエス様がおいでになり、私たちがその民に加わるように招いてくださったからです。これが伝わなければ、私たちの礼拝が失敗です。いつでも家族や知人を誘い、救いの道を聞かせていただけるのだと信じて備えましょう。毎日が伝道礼拝となるように意識を新たにしましょう。また、すべての主の民がみ国の良い知

らせを伝える事に励むように心がけましょう!現に既にやっておられる方々、引き続き頑張ってください。良い手本を示してください。また、無理をする必要が決してありませんが、主の民が徐々に自信をつけて訓練を受けて、実践しますように励みましょう。

祈祷:主イエス様、私たちがすべての民をあなたの弟子となるように福音を地の果てにまで伝えるように命じてまた望んでおられます。弱い私たちであるのに、こんな者を用いてくださることを良しとしてくださいます。救われた主の民に加わって、さらに、信仰が私たちの隅々にまで浸透していくように、あなたのみ心を学び、命じておいたことをすべて守るように教育と訓練を受け続けられるようにしたいと願っています。この世の人は昔のユダヤ人やギリシア人のように、あなたの招きを聞く耳がない者が大勢いますが、しかしあなたの御霊が福音を聞く者に新しい命を与え、イエス様が主であると告白できるようにしてください。感謝いたします。どうかただいまも、あなたを主としてまだ見上げて、信仰をまだ告白していない者がいれば、どうか、あなたの力を示して、ご自分のみもとに召してください。私たちの子供達にもともに主を信じる信仰を持つ身としてくださいますように。ただいま、聖霊のみ技を待ち望んでいます。ご自身の栄光をお示してください。